

養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究

菊地紀子 佐島群巳

A Research on the Improvement of Practical Ability in Nurse Teacher Education

Noriko KIKUCHI, Tomomi SAJIMA

【キーワード】 養護教諭 教育実習事前事後指導 保健学習指導 授業分析 実践的指導力

【Key Word】 nurse teacher pre-post guidance for teaching practical health training study lesson analysis practical ability

<日本文要旨>

本学に「養護教諭養成コース」が開設されたのが、平成11年度である。本年度は5年目に当たる。

養護教諭養成カリキュラムの改訂を数回行ったが、まだ、改善すべき点が指摘された。教育実習に行き、保健学習指導を実践した学生からは、もっと教育実習における「実践的に役立つカリキュラムにしてほしい」という要望があり、それに沿う形で「カリキュラムの改善」「事前指導」を行っている。

本研究では、論題で示したように、教育実習における「保健学習指導」実践力を中心にして、どのような学習過程を構成したか、教材をどう選択し、順序づけたか、わからせるためにどのような学習活動が展開されたか、三つの事例を分析的に検討した。教育実習は、学生にとって、教師の役割と自分の教育研究の方向を発見できたので、有効であった。

1. 研究動機と研究仮説

(1) 研究動機

平成11年度より「養護教諭の免許を取得できるコース」が設定された。文部科学省の指定された養護教諭養成の授業科目を設定して、型どおりの授業を行ってきた。養護教諭養成の実践的指導プログラムや開設授業を、今後さらに充実させていくため、カリキュラム検討中であるが、現状は今までの学生の要望を取り入れつつ、養護教諭養成の授業及び養護教諭「教育実習」事前事後指導を行っている。

短期大学という就学年限の最も短い大学での「養護教諭養成」をどのように行っていったらよいか、最大の悩みであり、指導の不安と戸惑いがあった。現実的な課題は、短期大学の養護教諭養成において、保健室での養護教諭としての役割と責任を持った学生を育成しなければならないということであった。さらに、保健に関する授業をつくるための「教材開発力」「教材構成力」など実践的指導力を育成していかなければならないという課題も合わせ持っているのである。

以上のような問題状況の中で、短期大学における「養護教諭養成」のための「教育実習事前事後指導プログラム」を策定し、実践的に展開することが焦眉の急と考え、目下試行錯誤の真只中の実践途上の成果の一端を提示し、多くの示唆を受けたいと考え、ここに問題提起と実践指導の事実を提示するものである。

本研究と関連する先行研究を「国立国会図書館（NDL-OPAC）」のデータベースから「『養護教諭』 and 『実践』」の二つのワードを含む論題名を大学研究紀要及び学校保健に関する研究雑誌から抽出検索した。抽出検索した論文は1996～2000年17件、2001～今日まで30件、合計47件であった。その研究領域を分類した結果は、表1の通りである。

表1で解ることは、圧倒的に養護教諭の実践指導（A B C D）に関する事例研究が多いのである。

Aは、養護教諭の実践の場において、多様な「実践事例の報告」である。例えば、次のようなことからである。

- ・教育相談
- ・保健室登校

表1 養護教諭の「実践力」に関する研究動向

研究対象	頻度数
A 養護教諭の実践報告	30
B 保健指導の実践	6
C 実践能力を高める養護教諭養成カリキュラム	3
D 保健学習指導の授業改造	3
E 研究力	3
F 専門性	1
G 書評	1

(47)

- ・生活習慣改善プログラム
- ・生と性の学習
- ・委員会活動

Bは、大学研究者による研究成果の報告であるが、例えば、小林冽子氏⁽¹⁾⁽²⁾は、保健指導の実践と養護教諭の成長の様態を教育実践者にアンケートした結果を報告している。

(2) いわゆる「実践的指導力」

ここで、本論の中心的課題である「実践的指導力」の用語・概念の意味づけをしておきたい。

そもそも、「実践的指導力」の形成が強調されるようになったのは、次の二つの点からである、と考える。

一つは昭和61年4月臨時教育審議会第二次答申に「教員の資質向上」が取り上げられた。大学での教員養成に当たっては「実践的指導力の基礎の修得」、現職研修においては、「実践的指導力の向上」に重点をおくべきことが指摘された。

二つは最近「指導力不足教員」「不適格教員」への対応及び改善が求められている。つまり、教師に「授業や学習指導、教育活動の方法技術を含めた実践的指導力の充実向上」が重視されているものと考えられる。

この問題は、学生であれ、現職教員であれ教育実践にかかわる者にとって等しく問われることである。

教育における実践的指導力について、柴田義松氏は、次のよう述べている。「教師の教育実践力をどうやって高めるかが、今日、わが国だけでなく国際的にも教育界の最大の問題の一つとなっている。教師の実践的指導力の中核を成すものは、なんといっても教育技術である。」⁽³⁾ この教育技術について筆者は、発問や指示などの狭義の概念ではなく、「子どもをどう育てるか(目的)」「何を学ばせるか(内容)」「子どもの能力や学び方をどう生かしていくか(方法)」など広義に実践的指導力をとらえることである、と考える。

また高久清吉氏は「『実践的指導力』の語は、日常の教育実践のなかでの実際の取り扱いや処理に関する方法・技術の習熟を通して発揮される指導力という意

味で使われていると理解される」⁽⁴⁾と述べている。高久氏のいう実践的指導力は、学校教育活動の全般にわたって子どもとのかかわり方、授業展開における技術的活動と広義にとらえているのである。

土井進氏は教員の実践的指導力の構成する三要素として次のように提示している。⁽⁵⁾

- ①子どもに寄り添う「人間力」
- ②子どもの学びを引き出す「教材開発力」
- ③子どもと教材を結んで学びを成立させる「授業組織力」

土井氏の考えは、教育実践者を納得させられる概念規定である、と考える。いずれにしても、「養護教諭の専門性と力量形成」のためには、「実践から学ぶこと」⁽⁶⁾である、と考える。なによりも実践的指導力の中心は、「授業づくり」と「授業の進め方」である。そのためには、教材研究と子ども研究(発達の特性)、授業方法研究、評価研究等多面的、構造的に授業を吟味することである。そしてその実践過程を分析しながら授業づくりや教材づくりの適否、子どもの学びの様態などを検証しなければならない。これが実践的指導力形成の基本である、と考え、本研究に取り組んでいるところである。

(3) 研究の立場

我々の研究は、先行研究のいずれにおいても検討されていないものである。

本研究は、養護教諭の資格取得する学生が教育実習に行った際、「保健学習指導」が課せられ、苦勞しながら教材研究、学習活動工夫のなど大学の授業では、味わい知ることのできないことを体全体を駆使して、自己の最高の知力と努力によって達成体験するのである。

本学では、養護教諭養成において、実践的指導力形成を図るために「教育実習事前事後指導プログラム」を策定して、きめこまかな指導を行ってきた。

本研究は、その実践指導過程のうち、次の三つの実践的活動場面を取り上げ、解析検討するものである。

- 1) 1年の事前指導における先輩(2年)の「保健学習指導実践例」を聞いた学生の教育実習に対する問題意識の様態を把握する。
- 2) 1年の「教育参加」(小学校・幼稚園)において、学生は大学での学ぶ課題をどのように意識化し、研究をしているか、実践的活動への動機づけになったか、その実態を把握する。
- 3) 教育実習における「保健学習指導(2年)」において、どのような研究と教育を体験したかを明らかにする。

本研究は、「養護教諭の教育実習事前事後プログラム」の実践過程を検討することによって、次の研究仮説を設定したのである。

- (1) 短期大学の学生が教育実習プログラムによる指導によって、教育に対する学生の問題意識が明確になり、実践意欲、学習態度の変容を見ることが出来る。
- (2) 「教育実習事前事後指導プログラム」によって実践した結果から、より最適な「教育実習実践指導プログラム」の改善方途を明らかにできる。
- (3) この研究を通して本学のカリキュラムのトータルな改善視点を明らかにできる。

2. 研究のねらい

- (1) 短期大学の「養護教諭養成」のための「教育実習事前事後指導プログラム」の適否について検討する。
- (2) 短期大学生は「教育実習事前事後指導プログラム」の実践的な学習過程において、教育への関心、養護教諭としての自覚、養護教諭としての基本的技能・教養などを身につけ、どのように実践的指導力が形成変容するかを明らかにする。

3 研究方法

- (1) 「教育実習事前指導」における先輩の「保健学習指導事例」を聞き、教育実習の問題意識の様態分析
- (2) 小学校・幼稚園の「教育参加」による養護教諭に対する意識の様態分析
- (3) 教育実習における「保健学習指導」実践過程の考察

4 研究結果と考察

(1) 養護教諭養成事前事後指導プログラムの試行・改善

平成11(1999)年度より「養護教諭二種免許を取得できるコース」が開設された。開設当初の指導プログラムは不十分なものであった。勿論実践指導力形成という視点から実証的に検討した形跡は、平成11年度策定した「教育実習事前事後指導プログラム」になかったので改善の余地が残された。

残念ながら、平成11年度、平成12年度は、「教育実習事前事後指導プログラム」が確定的なものではなかった。いわば、暗中模索の中で指導して来たと言ってもよい。また、「教育実習事前事後指導」の指導体制も

確定していなかったことを率直に認めざるを得ない。

平成13年度の後半から、「教育実習事前事後指導プログラム」の必要性が認知されるようになった。そして、実践的試行をしたのが平成13年度からである。表2はその養護教諭養成事前事後指導プログラムが最初に策定されたものである。(平成13.3.7完成)

平成13年度は、表-2のプログラムによって実践して来た。しかし、学生の実践的指導力形成を図るために、表-2のプログラムでは、不十分であることに気づく。

そこで、平成14年度当初は、表-2の教育実習指導プログラムに従って実践してきた。実践過程において最低必要な教育実習の基本事項として新たに「教育参加」を実習指導プログラムに取り入れることにしたのである。

こうして、平成14年度版、本学の「養護教諭養成教育実習事前事後指導プログラム」が策定された。(平成14年9月)それが表-3である。

平成15年度もほぼ、表-3のプログラムによって実践指導しているのである。

しかし、このプログラムで充分とはいえない。そこで、大学カリキュラムの授業科目に養護教諭の実践的指導力形成に必要な授業科目を開設することにした。⁽⁷⁾

(2) 田中実践に学ぶ

1年の教育実習事前指導として、保健学習指導をどのように構成し、実践するかが大きな課題であった。それは教育実習において、殆どどの学生に保健学習指導が課せられるからである。

そこで、教育実習を終了した2年の田中沙希恵の保健学習指導実践を報告⁽⁸⁾してもらうことになった。田中は、1年の学生に向かって「授業づくり」の基本について次のように説明された。

- ・テーマ、題材は興味・関心を持って日々探す
- ・参考図書は高校の保健の教科書に始まり、短大の看護学、解剖生理学、教職論、発達心理学など20冊の本を読んだ⁽⁹⁾
- ・資料作りは色使い、文字の大きさに注意、ノートを取りやすい板書計画などを検討した
- ・発達段階に合わせた説明の仕方、他の教科との関連、子どもの実態把握、子ども理解につとめた
- ・教師からの一方的な授業ではなく、子ども自ら考えさせる参加させる気づかせる授業をつくる
- ・子どもの反応を見ながら授業をする、大変だけれど子どもの協力に感謝、「教えることは学ぶこと」ということを学んだ

表2 養護教諭養成事前・事後プログラム

基 本 的 内 容	実 施 日
<p>「養護教諭『教育実習の意義』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の中の保健教育の位置づけ ・養護教諭免許取得するものの人に対する心くばり、心構えについての自己認識を深め、養護教諭の「教育実習の意義」について考える 	<p>1年 4月14日(土) (1:30～)</p> <p>2年 4月12日 (1:30～)</p> <p>4月12日 (合同)</p>
<p>1 養護教諭「教育実習の事前指導」</p> <p>(1) 養護教諭「教育実習の基本事項について理解を深めるとともに養護教諭の役割について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校保健における健康教育 ②学級活動としての保健指導 ③日誌のつけ方 	<p>1年合同 7月7日(土)</p>
<p>(2) 養護教諭の実践的指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保健指導計画・学習指導案のたて方 ②効果的な教材づくり ③指導方法の工夫 	<p>1年 9月4日(火)</p>
<p>(3) 養護教諭の教育現場の参観(グループワーク)</p> <p><保健室の機能と管理運営>(PM1:00-5:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保健室経営 ②教育相談 ③保健関係事務 ④児童・生徒との対応 	<p>1年 9月12日(水) 9月13日(木) 9月14日(金)</p>
<p>(4) 養護教諭「教育実習」の直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の参観をふまえて教育実習の心構え 	<p>3月4日</p>
<p>養護教諭「教育実習」4週間</p>	<p>1年次末 2年前期</p>
<p>2 養護教諭「教育実習」の事後指導の反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭「教育実習」をふりかえり、学生同士、情報交換 ・養護教諭免許取得者としての、今後学ぶべきことの確認 	<p>実習直後</p>

表3 平成14年度帝京短期大学「養護教諭教育実習事前事後指導」プログラム

実施日	1年次	実施日	2年次
2002年 4/13 (土) 10:30~12:00	「教育実習の意義」 (1)学校保健と養護教諭の役割 (2)教育実習の意義	2002年 3月末日	(5) 教育実習直前指導その2 ①4月4日からの実習生対象
5/24 (金) 13:00~15:00	1 「教育実習の在り方」 (1)教育実習の基本事項 ①健康教育 ②学級活動としての保健活動 ③日誌の付け方 ④訪問指導において気づいたこと	4/27 (土) 9:30~12:00	②5月7日からの実習生対象
6/21 (金) 13:00~15:00	(2)実践的指導法 ①保健指導計画 ②学習指導案作り ③効果的な教材作り ④指導法の工夫	5/8 (水) 10:30~12:00	③5月13日からの実習生対象
9/2 (月) 13:00~15:00 9/8 (火) 8:00~12:00 ~ 9/9 (月) 8:00~12:00	(3)・1 教育参加(グループワーク) ①保健室の経営 ②児童・生徒への対応 ③教育相談 ④保健関係事務 *1 実習校 中幡・本町東・笹塚 常磐松・富谷各小学校	5/29 (水) 10:30~12:00	④6月3日からの実習生対象 欠席者対象の直前指導はその都度行う
9/10 (火) 9:00~10:30 ~ 9/20 (金) 9:00~10:30	(3)・2 教育参加(グループワーク) ①幼児の活動力と行動様式の観察 ②幼児への対応の仕方 ③教師の指導・援助の仕方、役割 ④幼児の活動と環境構成の仕方 *2 実習校 帝京第一幼稚園	4/4 (木) ~ 6/28 (金)	2 教育実習を行う 3 3名中3 1名実習 (注)2名は指導中 その訪問指導を全員で行う
2003年 2/14 (金) 13:00~15:00	(4)教育実習直前指導その1 ①(3)の教育現場参加を踏まえて実習に臨む ②切実な課題・目的を持つ ③教育実習への心構えを持つ	7/6 (土)	3 教育実習事後指導及び反省会 (1)教育実習の振り返り (2)体験的情報交換

(注) 1 教育実習の事前・事後指導は担当教員が毎回参加し行うものとする。

2 事前・事後指導の基本事項を確認し合うようにしたい。

3 参加したすべての学生には『学習のまとめ』を書いてもらい、今後の指導に資するようにする。

4 本プログラムは、本学の諸行事等によって日程が変更する場合がある。

5 本プログラムは、教員養成の必要性と学生の実習体験からの要望とを加味し、随時修正充実を図るようにしている。

*1 教育参加実習校が昨年1校であったが本年度は5校に増やした。

*2 本年度より幼稚園の「教育参加」を行うことになった。

・子どもの名前を覚えることが大事である

田中実践の「授業の構想と実践過程」概要については、「教材学研究」⁽¹⁰⁾に発表報告してあるので参照されたい。さらに、田中実践の優れた授業づくり、教材づくり、の全貌をここに詳述してみたい。それは「教材学研究」には、具体的な学習過程及び活用した学習資料(教材)を提出していなかったからである。従って、本論においては、田中実践における学習過程の最適性、学習資料の教育的有効性について検討することに意味があるからである。

①「タバコと体」の授業展開

保健指導指導案

帝京短期大学 生活科学科 田中 沙希恵

日時 平成14年5月27日(月) 第1校時

学級 筑波大学附属小学校 4部6年

(男20名、女20名 計40名)

1. 題材名 タバコと体

2. ねらい

低年齢からの喫煙は害が深刻であることから、喫煙が身体に及ぼす害や病気について具体的事例で理解させ、タバコを吸わない心構えを持つ態度を育てる。

3. 題材について

喫煙は肺がんなどの呼吸器疾患をはじめ心臓病やその他の循環器疾患などと密接な関連があり、人体に悪影響を及ぼすことは世界的に証明されている。また、喫煙習慣は容易に形成されるとともに、いったん形成された喫煙習慣を断つことは大変難しい。そして、喫煙開始年齢が低いほど健康への影響が大きい。

現代は子どもたちの発育変化が速くなったことに加え、マスメディアの変化や自動販売機の存在など、子どもたちや子どもたちを取りまく社会環境の変化から喫煙の低年齢化傾向にある。

そこで、具体的事例をもとに喫煙が身体に及ぼす害や病気について理解することによりタバコを吸わない心構えを持ち、心身ともに健康で且つ、自らの健康レベルを上げる態度を養う。

4. 授業構想

タバコの煙が人体に及ぼす害を児童に具体的に認識させ、その恐ろしさを十分認識させるためには視覚に訴えることが効果的であると考え、資料を活用しながら学習を進めていくことにする。

以上の展開案は、三つの枠組みによって構成されている。

一つは、「子どもの活動」を予想しながら、その活動に対してどのような子どもの反応が期待されるかについて克明に分析的にとらえているところが極めて適切である。

二つは、子どもの活動に対して、教師はどのような「指導の手だて」を講じるかを示している。とりわけ、「タバコと体」とのかかわり、すなわち、タバコが人体に与える影響を説明する「教師の説明事項が用意されている」ことである。

三つは、上記の「指導の手だて」として、子どもにタバコと体との関係を理解させるのに有効な学習資料が用意されていることである。

田中実践の優れた授業づくりのポイントは、彼女が実践報告の冒頭に述べた教材研究の方法的態度である。それは、1年次の段階から2年の教育実習における保健学習指導のテーマ、主題を発見し、その教材づくりのために多くの本を読み、実習校に足を運んで、自ら教材づくりの方法を教えていただく、という事前研究をしたことである。

② 学習資料の活用

田中実践の指導過程は、展開案に示してあるように、大きく三つに分節できる。

1) 導入 (5分)

2) 展開 (30分)

3) まとめ (5分)

1) 導入：学習課題の把握

導入は、本時の課題をつかむ活動である。プリント資料1(本時のワークシート)を配布し、次の設問をしている。設問は、子どもの学習の意識化と学習後の自己評価に生かそうとするものである。

2) 展開：タバコの人体に与える影響

展開部は、大きく①②に分節されている。展開①では、タバコの社会的問題として取り上げられた理由について、子どもたちに考えさせ、答えさせたのである。教師の指導としては、禁煙場所に設定されている禁煙車両、飲食店内の禁煙席、駅のホームでの喫煙コーナーなどのあることに気づかせながら、子どもの意識を揺さぶり、学習への意欲づけをしているのである。

展開②は、タバコの煙には、主流煙と副流煙がある。このことに気づかせるために資料3「タバコと体(人体図)」を提示した。

教師は、主流煙には4000種の化学物質が含まれていることや有害物質について補説する。

タバコの有害物質の具体例として、次の三つについて説明する。

- ・ニコチン(心拍数を増やすとともに血管を収縮させ、血圧を上げ、必要な栄養や酸素がいきとどかなくなる。)
- ・タール(発ガン作用を増やす)
- ・一酸化炭素(酸素を運ぶ能力を低下させ、心筋梗塞や狭心症を起こす原因となっている)

子どもは、その段階で、いかにタバコが体によくないことに注目し、真剣に説明を聞いていた、という記録がある。

さらに、子どもたちには、はっと驚くような資料4⁽⁴⁾のカラー写真を提示する。

「タバコを吸わない人の肺」より「タバコを吸う人の肺」の色が変質していることから、タバコを吸うとタバコの煙に含まれる毒が血液の中に入り、全身に悪影響を及ぼすことを説明したのである。

資料4は、「喫煙者の肺」の黒ずんだ写真と「非喫煙者の肺」の肌色の写真を提示した。この二つの写真を使い、子どもの視覚に訴えながら、教師の説明とで、実感的な理解を深めるのに有用な資料であったと解釈できる。

5. 展開

段階	学習活動と内容	教師の指導	期待される児童の反応	留意点
導入 (五分)	1. 禁煙マークを見せ、喫煙に対する関心をもたせる。	まず、プリント(資料1)を配布する。 次に、禁煙マークを見せる。 ◎ 発問1 「皆さんはこの禁煙マークを見たことがありますか？」	・見たことがある →多数 ・見たことがない →少数	■ 資料1 「タバコと体」 ■ 資料2 禁煙マーク ▲挙手させる
展開 (三〇分)	2. タバコが社会的な問題として取りあげられている理由。また、タバコが体に悪いと言われている理由を考え、プリントの1番に記入した後、発表する。	◎ 発問2 「今、日本の社会では禁煙車両の増えたり、レストランなどの飲食店では禁煙席があります。又、駅のホームではタバコを吸う場所を制限した喫煙コーナーンが作られるなどタバコが社会問題として取りあげられていますが、それはなぜでしょうか？」 「皆さんの考えを書いて下さい」	・病気になる。 (ガン・肺ガン、心臓病、脳梗塞など) ・寿命が縮まる。 ・呼吸が苦しくなる。 ・周りの人たちに迷惑になる。 ・止められなくなる。 ・胎児に悪影響を及ぼす。	▲タバコが社会的な問題として取りあげられている。又、タバコは体に悪いと言われている理由について自分の考えを発表させる。 (黒板に書かせる。3名)
	3. タバコの煙について タバコの煙には主流煙と副流煙があることを理解する。	・主流煙と副流煙について説明する。 タバコの種類には2種類ある。 ① 主流煙 →タバコを吸う人が直接タバコの吸い口から吸う煙 ② 副流煙 →タバコの火がついた先から立ち上る煙		注) 以下の展開は児童から出された意見を生かしながら適宜、展開する。よって順序が前後する可能性がある。 ■ 資料3 人体図 ▲児童にはプリント(資料1)の2番にポイントを(キーワード)を記入させる。

<p>4-1. タバコの煙に含まれる有害物質について理解する。</p>	<p>主流煙には約 4000 種類の化学物質が含まれている。その内、200 種類以上は発がん物質をはじめとする有害物質である。</p> <p>ところが、副流煙には主流煙以上に多くの有害物質が含まれ、それらの濃度は主流煙よりも高くなっている。</p> <p>《有害物質》 ニコチン・タール・一酸化炭素・アンモニア・窒素化合物・ダイオキシン・アセトアルデヒド・ホルムアルデヒド・ベンゼン・ベンゾピレン・ニトロアミン・アクロレイン・シアン化水素など。</p> <p>特にニコチン・タール・一酸化炭素は代表的なタバコの有害物質であり、体に悪影響を与える。</p>	<p>・こんなに有害物質が含まれているなんて驚いた。</p> <p>・煙によって含まれている有害物質の濃度が違うとは思わなかった。</p> <p>・タール、ニコチン、一酸化炭素は知っている。</p>	<p>《ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主流煙 ・ 副流煙 ・ タール ・ ニコチン ・ 一酸化炭素
<p>4-2. タバコの煙に含まれている有害物質のニコチン・タール・一酸化炭素について理解する。</p>	<p>・ニコチン</p> <p>→ ・一度タバコを吸うと、タバコを吸うことを止められなくなる原因となる最も危険な物質。(習慣性を引き起こす)</p> <p>・心拍数を増やすと共に血管を収縮させ、血圧を上げる作用がある。</p> <p>・血管が収縮すると体全体に必要な栄養や酸素が行き届かなくなったり血液の流れが悪くなることによって体温が低くなる。</p> <p>・運動能力や頭の働きを低下させる作用がある。</p>	<p>・タバコを吸うことをなかなか止められないのはこの物質の影響だったんだ！。</p> <p>・色んな悪影響があるなあ。</p> <p>・体に栄養や酸素が行き届かなくなるなんて怖い。</p>	<p>▲児童にはプリント(資料1)の2番にポイントを記入させる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ タール → ・ タバコの煙の粒子成分であるヤニのもと。 ・ 健康な細胞をガン細胞に変化させる「発ガン作用」やガン細胞を増進させる「ガン増進作用」がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これがヤニのもとだったんだ！。 ・ 発ガン作用があるなんて怖い。 ・ これがタバコを吸うとガンになる原因だったんだ！ 	
<p>4-3. タバコの煙に含まれている一酸化炭素について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一酸化炭素 → ・ 血液中にあり、酸素を体の全身に運ぶ重要な役割をしている赤血球のヘモグロビンと結びつき、酸素を運ぶ能力を低下させ、全身の細胞を酸欠状態にしてしまう。 ・ 細胞が酸素不足になることにより、心臓に負担がかかって心臓病(心筋梗塞や狭心症)を引き起こす原因となる。 《心筋梗塞》 血管がつまり、血液が流れにくくなることによって心臓に酸素や栄養が運ばれなくなり、心臓の筋肉の組織が死んでしまう。 《狭心症》 心臓が動いている時に十分な血液を送れず酸素不足状態になり起こる発作。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全身の細胞が酸素不足になるなんて怖い！ ・ 心臓にも害があるんだ！ 	<p>▲児童にはプリント(資料1)の2番にポイントを記入させる。</p>
<p>5. タバコと病気 ～タバコは全身病！？～ タバコが全身に及ぼす影響について具体的な事例をもとに理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肺への影響について ◎発問3 「肺はどんな働きをしていますか？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酸素と二酸化炭素のガス交換をしている。 	<p>▲発表させる</p>

<p>5. タバコと病気</p> <p>1) タバコが肺に及ぼす影響について理解する。</p> <p>2) 肺がんの主な原因がタバコであることを理解させる。</p>	<p>・肺のしくみについて説明する。 → ・肺は肺胞と呼ばれるブドウの房のようなものの集まりである。</p> <p>・肺では酸素と二酸化炭素のガス交換を行っている。</p> <p>・肺はテニスコートくらいの大きさである。</p> <p>・血管は全身のいたる所にあり、呼吸によって肺から取り入れた酸素は体全体にまわる。</p> <p>・肺への影響について説明する。 → ・タバコを吸うとタバコの煙に含まれる毒も血液の中に入り、全身に悪影響を及ぼす。</p> <p>・タバコは肺がんの主な原因になっており、肺がんになる人の約 80% はタバコが原因であると言われている。</p> <p>・「皆さんのように体がまだ出来あがっていない 19 才以下の未成年でタバコを吸い始めると、タバコを吸わない人と比べて 5.7 倍も多くの方が肺がんで亡くなっており、成人よりもタバコの悪影響を受けやすいのです。」</p>	<p>・肺ってブドウの房みたいになっているんだ！</p> <p>・肺ってテニスコートの大きさをしているんだ！</p> <p>・肺がんになる人の約 80% がタバコが原因とは驚いた。</p> <p>・タバコは怖い。</p> <p>・未成年へのタバコの影響は怖い。</p> <p>・タバコを吸わない人と比べて、タバコを吸う人が 5.7 倍も肺がんで亡くなっているとは、やはりタバコは体に悪い。</p>	<p>■ 資料 4 肺の写真</p> <p>■ 資料 5 グラフ 「タバコと肺がんの関係」</p> <p>■ 資料 6 グラフ 「タバコを吸う人と吸わない人の死ぬ人数」</p>
--	--	--	--

<p>3) タバコが脳に及ぼす影響について理解する。</p>	<p>・脳への影響について説明する。</p> <p>① 脳梗塞 →脳の血管が詰まる</p> <p>② くも膜下出血 →脳の表面の血管が破れて出血する。</p>	<p>・脳にも影響があるんだ!</p>	<p>▲各臓器がある位置について、児童に質問して意見を発表させる。</p> <p>▲児童にはプリント(資料1)の2番にポイントを記入させる</p>
<p>4) タバコが歯に及ぼす影響について理解する。</p>	<p>① 歯がタバコのヤニで黄色くなる</p> <p>③ 歯周病 →歯肉炎、歯周炎などの総称 《歯肉炎》 歯ぐきが赤くなって腫れたり、出血したりするなどの症状。 《歯周炎》</p> <p>・歯肉が歯ぐきに影響が及ぶのに対し、骨にまで影響が及んでしまう。</p> <p>・歯と歯ぐきの間にすき間があき、歯のつけ根の骨が溶けてしまう。</p> <p>・食道への影響 →食道がん</p>	<p>・歯への影響は歯の色が変わるだけではないんだ!</p> <p>・歯の骨が溶けてしまいうなんて怖い。</p> <p>・胃や食道にも影響があるんだ!</p>	<p>■ 資料6 歯の写真</p> <p>■ 資料3 人体図を用いながら説明する。</p> <p>・臓器の名称と病名を書いたカードを人体図に貼っていく。</p> <p>・説明する臓器を赤いチョークで塗っていく。(最後には全身の臓器が赤いチョークで塗られた状態となる)</p>
<p>5) タバコが食道、胃、十二指腸、膀胱に及ぼす影響について理解する。</p>	<p>・胃への影響 →胃がん・胃潰瘍</p> <p>・十二指腸への影響 →十二指腸がん</p> <p>・ぼうこうへの影響 →ぼうこうガン</p> <p>《その他の体への影響》 肩こり・手足の震え・疲れやすい・むくみ・食欲がなくなる・息切れ・動悸・声がかすれる・肌が荒れる・肌が黒ずむ・便秘</p>	<p>・タバコの体への影響は〇〇だけではないんだ!</p>	

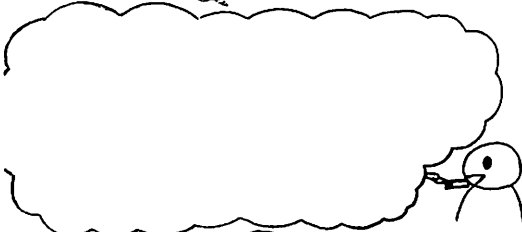
<p>まとめ (五分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめをする ・ 今日学習したことについて感想を記入する。(資料1プリントの3番) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ このようにたばこは全身に悪影響を及ぼす。特に、未成年への害は大きい。 ・ タバコはニコチンによる習慣性を引き起こすので1本でも吸ってはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タバコは全身に悪い影響を与える。 ・ タバコは今まで考えていた以上に体に悪い影響を与える。 ・ タバコは吸ってはいけない。 ・ タバコは怖い。 ・ 体に悪いのになぜタバコを売るのであるだろう。 	<p>▲プリント(資料1)の表題の空欄に自分なりの言葉でタバコが体に害であることを記入する。</p> <p>「タバコは・・・」 例) 全身病・悪い・ダメ・病気の原因・危険である・吸ってはいけない e t c.</p>
---------------------	---	---	--	--

資料1

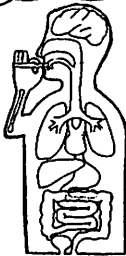
4年6年 保健学習 筑波大学附属小学校 平成14年5月27日(月)

タバコと体の学習 タバコは()

1. なぜタバコは体に悪いと言われているのでしょうか?
あなたの考えを下の ☁️ の中に書いて下さい。



2. タバコと体の関係は?

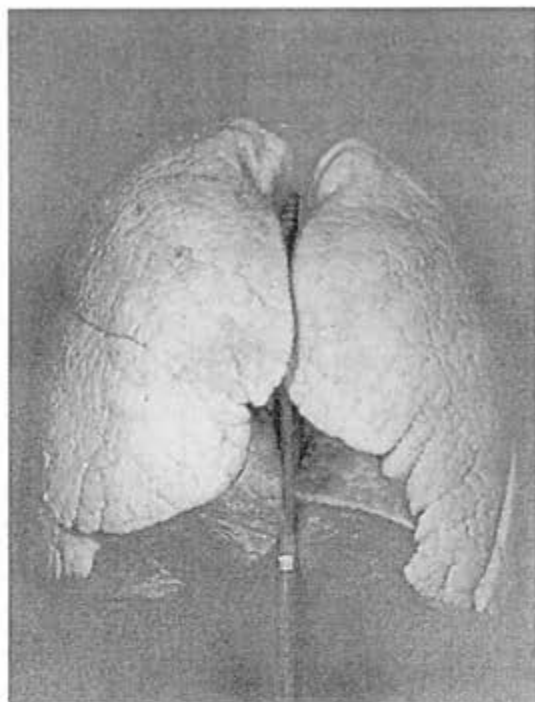
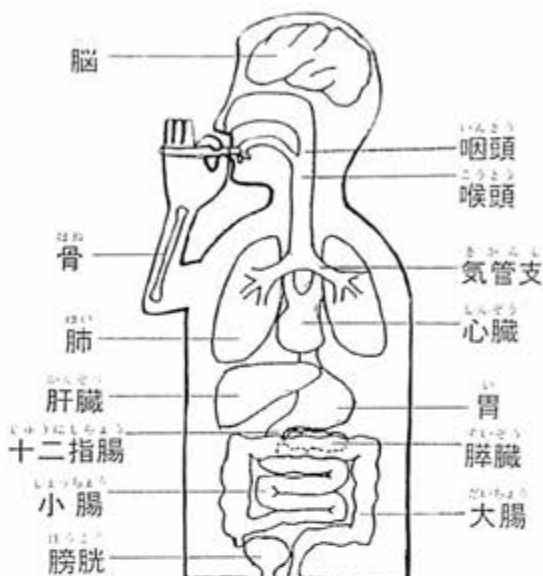


3. 感想・その他、今日の授業でわかったことなど自由に書いて下さい。
書ききれない場合は裏に書いて下さい。

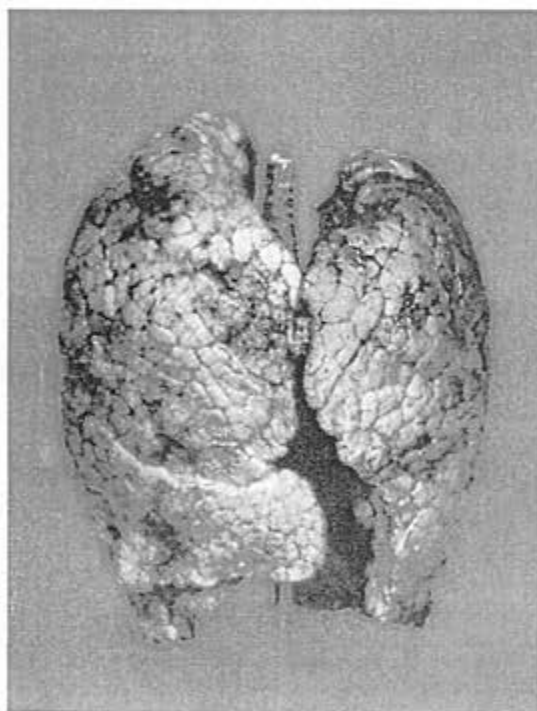
資料2



タバコと体



非喫煙者の肺

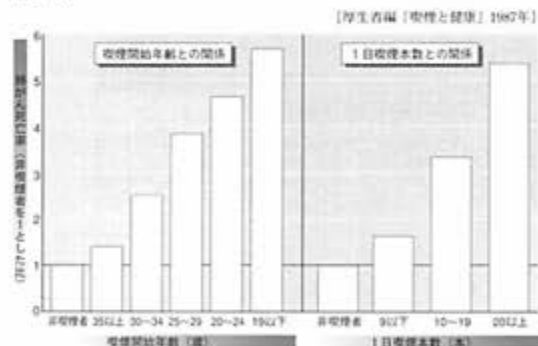


喫煙者の肺

資料5⁽¹²⁾は、「タバコと肺ガンとの関係」を示す図である。この図を見せながら指導者は、次のような説明をしている。

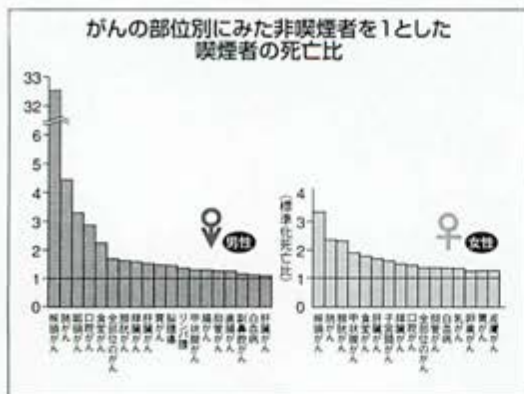
「皆さんのように体がまだ出来あがっていない19歳以下の未成年でタバコを吸い始めると、タバコを吸わない人と比べて、5.7倍も多くの方が肺ガンで亡くなっており、成人よりもタバコの影響を受けやすいのです。」

資料5



次に、資料6⁽¹³⁾を提示しながら「脳に与える影響」、資料7⁽¹⁴⁾「歯に与える影響」について、資料を見ながら理解を深めていく。

資料6



資料7



タバコを吸わない人の歯

高く、汚いしみもなく白い歯である。歯肉もサーモンピンクの色をしていてきれいで、傷もない。また歯肉も非常にかたく、歯肉肉の虚状なども見られない。このように歯肉を常習することなく、適度なブラッシングケアを欠かさなければ、健康で丈夫な歯と歯肉を保つことができる。



タバコのために歯が黒色

茶色のしみがついている。このしみや汚れはタバコやパイプをくわえた歯垢に付着する。歯肉に弾力性がなく、やわらかくなっているため、やがて歯がぐらぐら動いて抜けてしまう。歯肉は歯肉(歯ぐき)を著しく破壊し、全体の歯に悪影響を及ぼしている。

3) まとめ：学んだことの確認・評価

本時のまとめとしては、今学んだことを確認しながら感想をプリント(ワークシート-資料1の3)に書かせ、授業を終了するのである。

③田中実践から学んだこと

田中実践を聞きながら、1年次学生はどのように「教育実習」をとらえ、「授業」をどのようにイメージ

しているだろうか。学生の、「田中実践から学んだこと」は、表4の通りである。

表4でわかるように、1年次学生は、

- ・Ⅰ「教材研究」(83%)
- ・Ⅱ「指導の工夫・授業の進め方の工夫が大事」(55%)
- ・Ⅲ「養護教諭の仕事の重要性、大切さを学んだ(田中実践から)」(9%)

Ⅰの中でも最も注視した点は「題材・テーマ探し、そのねらい、内容、方法、授業づくりに多くの時間を要する」(23人…40%)ということである。いわば、実践指導への心構えができたように思われる。また、Ⅱの指導の工夫、授業の進め方については、「生徒の関心を寄せるためのたくさんの工夫(質問(発問)・板書)」に着目したもの(5人…9%)、「子どもの反応を見ながら授業を進めることが大事(子どもの意見を否定しない)」(10人…17%)などと答えている。

このほか、田中実践からどのような感想を持ったかを尋ねた。その感想は表5に示した。

- ・田中さんの授業実践、経験談を聞いて参考になった。(気配り、教材研究、熱心さに感動した) 16名
- ・教師は、日頃から研究と修養に努めなければならない(新聞のニュースその他の記事などに)専門性を高めること 7名
- ・今から題材探し夏休み中でも探し取り組んでいこう(危機感) 4名
- ・私にできるかどうか不安、養護教諭になるため負けたくないよう頑張りたい 8名
- ・意欲をなくさないようにたくさん勉強しなければならない 4名

以上のような「田中実践から学んだこと」(感想)で述べていることは、田中実践から強烈な刺激を受け、教材研究や授業づくりへの切実な課題意識をもち、自らその課題を意欲的に探求したい、もっと勉強して養護教諭の役割や保健学習指導の在り方について理解を深めたい、という自覚を持つようになったのである。

このような1年次学生の実践への課題意識を高め、意欲的に養護教諭としての専門性を磨こうというように意識変容したのも、田中実践の優れた授業づくり、進め方に感動し、それに感化された証左であろう。

確かに田中実践の臨場感あふれる説明と創意工夫された自作資料が多用されることが、学生をして意識変容させた要因であるように思われる。

表4 田中実践から学んだこと

(58名中)

分析視点	学生の捉えた事柄	数字は頻度数
I 教材（保健題材）研究	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに研究し、生徒にわかりやすい授業づくり 2 ・発育問題・生活習慣病などについて理解を深めたい 9 ・<u>題材・テーマ探し、そのねらい、内容、方法を授業づくりに多くの時間を要する</u> 23 ・教材研究で20冊も読み、分かりやすく図や絵にあらわすー日常的情報から 3 ・育つという視点から深く理解し、関心と健康な生活が送れるようにする 1 ・社会行事でも健康に関する日に指導する 1 ・「教えることは学ぶこと」という言葉の本当の意味がわかった 4 ・「なすことによって学ぶ」 learning by doing ことがわかった 2 ・保健指導と保健学習のちがいがい 1 	
II 指導の工夫・授業の進め方の工夫が大事	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の関心を寄せるためのたくさんの工夫（質問（発問））・板書 5 ・子どもに気づき、考えさせるきっかけを与える場。そのために子どもの実態把握 7 ・<u>子どもの反応を見ながら授業を進めることが大事（子どもの意見を否定しない）</u> 10 ・子どもの発達（年齢）にあわせて分かりやすい授業をする（資料活用、具体的説明） 7 ・保健の授業は各教科でも行う 1 ・評価とは点数をつけることでなく、子どもの困っていることを助けること 3 ・コミュニケーションの仕方が大切 1 ・早く子どもの名前を覚える 5 	
III 養護教諭の仕事の重要性、大切さを学んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業をするときは子どもの視点に立つこと 1 ・病気のケアだけでなく心のケアが大切 1 ・養護実習を行った先輩の話聞いて、大変さを改めて感じた 1 ・常識としての礼儀を身につけておかなければならない 1 ・養護の仕事はいい仕事だ 1 	

表5 田中実践を聞いての感想（数字頻度数）

1	田中さんの授業実践・経験談を聞いて参考になった（気配） 16 教材研究、熱心さに感動した
2	<u>今の段階からしっかり勉強しておかなければならない（本で調べたり）</u> 6 日々の努力を成功させるためにはたくさんの知識、時間が必要（テレビで観察したり） 4
3	教育実習を通して自分自身が成長できる気がする（やりがいを感じる） 1
4	教師は、日頃から研究と修養に努めなければならない（新聞などに）専門性 7
5	1年後はあんな授業ができるか不安ー勉強して子どもの前で授業できるようにしたい 3
6	先輩から実習を終えた達成感がとても伝わってきた 1
7	子どもたち自身に理解できるようにすることが大切ー子どもの目線と同じところの授業 4
8	今から題材探し夏休み中にも探し取り組んでいこう（危機感） 4
9	私にできるかどうか不安 養護教諭になるため負けないように頑張りたい 8
10	<u>子どもの質問におおえることなく授業ができるよう、しっかり今から研究しよう</u> 4
11	指導案の話聞いて、私も子ども達の前でやってみたい 2
12	教えることに責任を持つべきだ 1
13	<u>意欲をなくさないようにたくさん勉強しなければならない</u> 4
14	子ども達がうるさくなるくらいの授業をやりたい 1

（3）教育参加

小学校の教育参加⁽¹⁵⁾は、教育実習を前にして小学校における「養護教諭の働き（業務内容）及び子どもへの対応の仕方、学校全体の教育的雰囲気、子どもの活動の様子、教育環境の機能、学校で働く人の様態」などについて、つぶさに観察させ、記録させ、教育実習への課題意識、目的意識をとらえさせることを、意図して実施した。

同様、幼稚園においても「教育参加」⁽¹⁶⁾を行った。ことに幼稚園の教育参加は、次のようなところに着目

して観察するよう事前に例示した。例えば次のような点である。

- ・幼児の活動力と行動様式の観察
- ・幼児への対応の仕方
- ・教師の幼児に対する指導、援助の仕方、役割
- ・幼児の活動を促す環境構成

まず、小学校における「教育参加」は、午前中3時間であった。幼稚園は、午前9時から10時半までの短い時間であった。「教育参加」をした学生は、いったい何を感じ、考え、そして「大学で学ぶ課題」を意識

表6 「教育参加」のまとめ（小学校の場合9/2～9/9）－大学で学ぶ課題－（数字は頻度数）

1 大学で専門的な医学、看護学で学ぶ 40 (人体構造、子どもの発育、成長、保健室についての知識、子どもの病気、薬の使い方)
2 来室について、来室者への対応の仕方…実習前にやりたい 33 (子どもとのコミュニケーションの仕方、接し方、関わり方、保健室での過ごし方－人間的にも強く、豊かにならなければならない)
3 応急処置法 18
4 知識だけでなく、実践的経験を積んで養護教諭を目指そう 4 (何度も実習したい…実践力、保健学習の教え方の他、学校の健康面での行動でも説明できる力と方法を身につけたい)
5 身の回りの危険な箇所の確認 2 身の回りの危険にどう対応するか(地震、水害、火事)
6 毎日毎日の大学の講義を大切にこれから勉強したい 3 (自分から積極的に学んでいかなければならない、自分の考えを生かして活動する)
7 学校見学や専門分野を精一杯やりたい 1
8 学校以外で社会奉仕(老人ホーム・ボランティア) 社会問題、流行病を調べ教養を高める 1
9 保護者、地域への関わり方 3
10 急に倒れた場合の対応の仕方－知識がないと何もできない 1
11 小学校の教え方、中学校の教え方 1
12 社会人としての言葉遣い、敬語、礼儀 1
13 養護教諭としての力量、洞察力、協調性を身につけたい 1

しただろうか。

学生に「教育参加」後に書いてもらったまとめノートから、自らの「大学における『研究課題』」を抽出してみた。

表6は、小学校の教育参加を通して把握した課題である。

表7は、幼稚園の教育参加で得られた追求課題であった。

学生にとって教育参加は、小学校・幼稚園での子どもたちと出会い、教師の子どもへの対応の仕方を観察することにおいて、学生にとって教育現場実践の初体験である。

小学校の教育参加は、主として「保健室における養護教諭の教育活動、保健室の機能の観察及び養護教諭の子どもへの対応の仕方(言葉かけ、診断、治療、測定等)」を注意深く観察できたことである。

教育参加における学生の「養護教諭の働き(業務内容)、子どもとの対応の仕方、学校全体の雰囲気、子どもの動き、教育環境」などに対する見方、考え方、捉え方が個人によって異なり、多様化している。同じ場面を観察しても、同じ事象の説明を聞いても、多様な捉え方をしている。学生にとってみれば、教育参加によって、学校、保健室、教師、子どもなどに対する眼差しは、新鮮で、学生一人ひとりの感性と認識を大きく刺激し、揺さぶり、自己の追求課題が表出したものになった。

教育参加は、学生の拡散的な感性と認識が生じるこ

とをむしろ必然的なものと考えた。この教育参加は計画、意図した教育実践活動である。学生の捉えた多様性の中の養護教諭としての重要な役割、専門的技能、子どもとの関わり方、教育的配慮等、共通な意味内容、価値ある課題が抽出できるものと考えたのである。

この各自捉えた研究課題については、教育参加の3ヶ月後に全員参加による「課題研究発表会」を開催することに決定した。その主な研究課題は、およそ次のようなものであった。

- ・「虫歯について」 藤木 智子
- ・「応急処置の仕方」 岡本 百香、平田いとも
萩原 真未 岡部 唯
- ・「生徒との接し方」 市川 智子
- ・「ボランティア活動」 菊池 恵

発表方法は、分科会方式で全員が発表した後に、分科会で優れた課題発表を相互に評価し合って、そこで選定された代表者が全体会で再度発表し合うのである。

1年次の「教育参加」→「課題発表会」という事前指導過程は、学生に対する養護教諭に対して、また、教育実習に対する課題意識を喚起し、意欲的に学んで行うとする態度形成に極めて有効であった、と考える。

(4)保健学習指導における授業づくり、教材づくり⁽¹⁷⁾

① 教育実習直前における学生の課題意識

教育実習直前指導において、次の問に答えてもらった。

「教育実習中、あなたはどんなことを『学びたいか』『研究したいか』を書いて下さい」

表7 「教育参加」のまとめ（幼稚園の場合9/10～9/20）－大学で学ぶ課題－（数字は頻度数）

I 発達心理的な研究	
1 発達に応じた適切な指導・援助（年齢にあったコミュニケーションの仕方）	5
2 幼児の集団行動（団体行動）やる気のない子の心理	3
3 幼児の叱り方、誉め方（そのタイミング）	4
4 年少から年長までの発達段階的な関わり方…すぐキレル子への関わり方	3
5 幼児の行動（遊びの中の人間関係）	4
6 子どもの感じ方、考え方、意志、理解力、体力…成長の様子	5
7 親の要望－幼稚園への期待	1
8 順番（交代）の社会性（接し方）	1
9 なぜ機嫌が悪くなるのか（原因）	1
10 子どもを動かす方法（指示の仕方）	1
II 養護教諭に関する研究	
1 教職として教員の心構え	1
2 人体や小児の身体について	1
3 子どもに多いケガや病気（その対処の仕方）	1
4 応急処置の仕方	1
5 環境への関わり方（暮らし方、危ない所）	1
III 教師の在り方研究	
1 人気のある先生というのは…人気のある先生になる方法	1
2 臨機応変な対応の仕方（喧嘩、その場に応じて、言うことを聞かない）	3
3 個性を見つけ、個性を伸ばす指導・援助の仕方、育て方	2
4 人を観察する力（行動、感情）	2
5 子どもとの接し方（あいさつ）	15
6 実践的なことを学びたい（意見交換をしたい）	2
7 自分自身の成長（社会のマナー）	1

この間に対する学生の主な課題と実習への学習意欲を示したのが表8である。

学生が書いた文章は150字から200字までの範囲で書かれたものである。学生の教育実習に対する心理的、教育的、自己実現的欲求は、この表8から読みとることが出来るものと考えられる。

教育実習に臨むにあたっての主な課題と、実習への学習意欲を大きく四つのカテゴリーから分析してみた。

一つは、養護教諭は一体どのような仕事をするものか、その様態を学びたい、という客観的な理解の視点である。

二つは、養護教諭の仕事ぶりをよく観察し、養護教諭の基本的な教育内容を理解する視点である。

三つは、教育実習で最も興味・関心を示すであろうと思われる、子どもの実態を、精神的、身体的、社会的な側面から理解する視点である。

四つは、実習生にとって、切実性の含意する課題である。すなわち「直接的な子どもとのふれあいの仕方」「保健学習指導の授業づくり、進め方」「保健だよりの作り方」など、実習中に予測される実習生の仕事の視点である。

第一の視点は、養護教諭として専門性とは何かを追

求する、極めて重要な課題で、51名中47名（92%）が、注視しているのである。そして、食欲にも学んで行きたいという、強い学習意欲が表出しているのである。

第二の視点は「養護教諭の主な仕事」について理解を深めたいというものである。そのためには、よく「養護教諭の振るまい、動きを観察していきたい（6人）」というものである。養護教諭の振るまいの中に、保健室に来訪する子どもへの対応、子どもとの関わり方をよく見取りたいという願いがこめられている。

第三の視点は、「子どもの実態」であるが、子ども理解において、よく子どもの振るまいや、行動を観察しなければならない、という教育実習の実践的指導する基本的課題である。学生が指摘した子どもの実態把握の課題として、「アレルギーや病気、心身の問題を抱えている子どもについて学びたい（4名）」「小学生、中学生の心の変化、抱えている問題を発見したい、発達と対応の仕方（4名）」などについて学びたい、という問題意識は、今日の児童生徒の生活の問題行動に鑑み、且つ将来養護教諭を目指そうとする意欲から発せられたものであろう。

ことに第四の視点は、学生自身が教育実習に対する、主体的受け止め方をしている点である。言葉の説明や曖昧な養護教諭の仕事や専門性を、この実習を通して、

表8 教育実習を前にして「学びたいこと」

(51名中)

	主な課題・学習欲求	頻度数
養護教諭の仕事	1 保健室に来た児童・生徒への対応の仕方、コミュニケーションの仕方—不登校児、教師としての心構え、問診、相談の仕方、一貪欲に学びたい	28
	2 子ども理解をしながら指導していきたい。一人一人違う子どもへの対応	7
	3 けが、病気への具体的対応処置の仕方、健康診断の進め方、専門性を学びたい	6
	4 健康診断の計画・実践、校医との連絡の取り方、事後措置について、1日がどのように流れているか	3
	5 心のケア（心に傷を持つ子、虐待されている子などへの対応）	3 (47)
養護教諭の仕事観察	6 養護教諭の振るまい、動きを観察したい（1との関連）	6
	7 養護教諭の基本、法的根拠があるので、必ず守るべきことを学びたい	2
	8 自然教室に参加しながら生徒をも観察したい	1
	9 他人に押しつけられない責任ある仕事、心配り	1 (10)
子どもの実態	10 アレルギーや病気、心身の問題を抱えている子どもについて学びたい	4
	11 小学生、中学生の心の変化、抱えている問題を発見したい、発達と対応の仕方	4
	12 睡眠の少ない子の実態	1 (9)
実習に対する自己対象化	13 子どもと触れ合って学びたい（机上でなく触れ合いの中で学びたい） 「頭が痛い」「気持ちが悪い」への対応	24
	14 生徒の発達、年齢に応じた健康問題、飲酒、喫煙などを研究したい	2
	15 授業の進め方について今から勉強、指導案の作り方（タバコと体）	7
	16 授業をやってみたい「保健だより」も作ってみたい、教材研究をしっかりやりたい	4
	17 どのような場合でも対応できるように—ともかくがんばりたい	2
	18 4週間で学びきれないかもしれない、ハングリー精神で学びたい	1
	19 実習中しか学べないので、この実習時間を大切にしたい	1
	20 自分が養護教諭になったときに生かしたい	1
	21 たくさんの知識や能力を身につけたい	1 (43)

(注) 複数回答による

自ら問い、自ら考え、自ら判断して、問題解決していきたいという「生きる力」を、自ら実習において形成したいという願い、自己実現的欲求が表出しているのである。

②保健学習指導で取り上げられた題材

本学においては、2年次の4月から7月の間に教育実習を実施している。

ところが、筆者の経験から⁽¹⁸⁾考えて、短期大学における教育実習は、極めて困難とつまずきが生じるであろうと予測したのである。私達は、教育実習に対する危惧の念を抱かざるを得なかった。それは、高等学校卒業と共に僅か一年間で、看護学、医学、保健教育等の基礎・基本を履修したとしても、机上での学習であるあるからである。

しかし、幸い現在「養護教諭」をなっている研究者として、指導者として優れた穴戸美先生⁽¹⁹⁾のご指導

は、学生にとって教育実習のよりどころであり、実践的指導力として実践に最大限生かされている点である。

また、前述したように教育実習事前指導として、「教育参加（幼稚園・小学校）」と「そこで得られた課題研究発表会」において、学生同士の教育実習への情報交換を通して、実習意識、学習欲求が醸成されていくのである。そのことは、表8が如実に物語っているものとする。

それだけに、学生にとっては、文字通り、新鮮な感性と認識をふるわせて教育実習への初期学習が始まるのである。また、私達教師は、教育実習中の学生の活動状況、勤務状態を把握し、必要に応じた指導を試み「訪問指導」を行っているのである。

教育実習は、それぞれ実習校の「実習指導プログラム」によって、3週間または4週間行われる。

本論においては、教育実習における「保健学習指導」

表9 教育実習における「保健学習指導」の題材

取り上げられた題材	頻度数
A 日常生活と健康（すいみん、かぜの予防、体をきれいに）	9
B 歯と健康（虫歯の予防、6歳臼歯）	7
C タバコと健康（タバコと中学生）	3
D 生と性（大人になる体、からだの発育、思春期）	3
E うんこと健康	2
F 応急処置法（骨折、脱臼、ねんざ、けが）	2
G 薬と自然治癒力	1

（注）頻度数は48名中の実践授業をした数である。

の実践過程を分析、検討し、学生の「実践的指導力形成」の様態を明らかにしたいと考えている。

本年度（平成15年度）の実習生は、48名であった。そのうち、教育実習において保健学習指導を行ったものが26名（54%）であった。

そこで、実践された「保健学習指導」の題材は表9の通りである。

学生の選定した「保健学習指導」の題材はA～Gまでである。教育実習において選定された題材は、1年次に学んだ「事前指導における田中実践の『タバコと健康（3名）』」「教育参加」において発見した探求課題が2年の教育実習まで持続的に関心をもち続けているものがある。例えば、「歯と健康」「薬と自然治癒力」などである。また、「応急処置法」は、日本赤十字の「救急員養成講習」で学んだことが動機づけとなっているのである。

従って、2年次実習までには、確実に「教育参加」の事前指導の充実を図ることと、授業科目の中で「保健学習指導」にかかわる実践的指導力形成を意図した教材研究、授業づくり、授業分析などの実践的なアプローチが必要である。

③ 保健学習指導過程の分析

ここでは、教育実習において実践した事例三つを取り上げ、学生にとって実習で実践的指導を通して学んだことについて検討していきたい。

（1）自作資料の活用による保健学習指導（竹中実践）⁽²⁰⁾

<1>保健学習指導案

①主題 性教育「からだの発育」－おとなに近づく

からだ（小学校4学年）

②学習のねらい

- ・思春期に入るこの頃、性ホルモンにより男女のからだに変化が現れ、おとなのからだへと近づいていく。そして、その変化は、誰にでも起こり、変化には個人差があるということを理解させる。
- ・性器の発達が新しい生命を作り出す準備であること。そして、性器は男女ともに大切な場所であることを理解させ、相手の性を認め合う心を育てる。

2) 授業の考察

竹中実践は、初めての教育実践でありながら、実に落ち着きを持って、資料を用いて解説したり、ものの喩え（比喩的な説明）を用いて説明したりして、子どもの注意を集中させ、理解を深めるように配慮していた。（この授業は佐島が観察した。以下の考察は、佐島の観察記録をもとに考察したものである。）

①発問の連続性

本時の教師の働きかけには二つあった。その一つは「発問」であり、もう一つは「資料提示による教師の説明」であり、この二つが学習過程に子どもの「からだの発育－おとなに近づくからだ」という主題学習に有効に作用していたと考える。

ここでは「発問」の持つ意味を子どもの動きと絡ませて考察したい。

導入における発問 T1、T2 は、子どもの生活経験から「性への関心」を導くものとして意味ある発問であった。

③主な学習指導過程 指導案2(竹中)

過程	主な教師の働き	資料の活用(○)	子どもの動き
導入	T1 生まれたばかりの赤ちゃんを見たことがありますか T2 育児室(赤ちゃんが寝る場所)で大勢並んだ赤ちゃん“どの子が男の子でどの子が女の子か区別できますか”		C1 見たことがある C2 見たことがない C3 区別できる C4 区別できない
どんなことで男と女の区別をするのか			
展	T3 看護師さんはどうやって男女の性別を見分けるのかな? T4 第一次性徴とは何でしょう ①を黒板に貼り「生まれつき持っている特徴」について説明する T5 男の先生と女の先生が同じTシャツGパンでいたら見分けはつきますか	①カード 第一次性徴 生まれつき持った特徴 ・授業参観している先生をさして臨機応変に男の先生、女の先生の体格、特徴をつかませる	C5 おちんちんがあるかないか C6 わからない C7 男の先生は体がかっちりしている C8 男の先生は肩幅が広い C9 女の先生は胸が出ている
いつ頃から性器以外の違いがはっきりしてくるのか			
	T6 いつ頃から性器以外の違いがはっきりしてくるのですか ②をもとに発育の様子を説明する ・女子-4年生半ばくらいから身長体重がグーンと伸びる ・男子-女子より遅れて中学1年半ばくらいから女子を抜いてグーンと伸びる T7 男らしいからだつき、女らしいからだつきとはどういうものですか	②年齢別発育状況 ③男らしいからだつき ④女らしいからだつき	C10 わからない C11 大人になったら C12 中学生になったら C13 背が高い C14 ひげがある C15 胸
これからどんなからだの変化が起こるのか			
開	T8 男と女を見分けるには性器の違いがあるけれども、性器とは何のためにあるのですか? T9 性器の特徴は男女でどのように違うでしょう ④男子-精巣、精子、声変わりについて説明 ⑤女子-卵巣、子宮、月経について説明	⑤男性の性器の特徴図 ⑥女性の性器の特徴図	C16 わからない C17 赤ちゃんを作るため C18 全ての子どもが真剣な眼差しで教生の説明を聞く
まとめ	T10 この地球上に男と女しかいない、お互いに認め合い、助け合っていかないと地球の子孫が途絶え、滅亡してしまうよ(補足)だから男は女の子の体が変わっていくことをバカにしたり、女は男の子のことをバカにしたりしないことだよ T11 性という「ことば」のつくり気づかせる T12 最後に感想を書かせる	⑦性 小…心 生…生命	C19 教生の話を聞きながら男女の相互理解の大切さに気づいていった一納得したような表情をしていた

展開部は、性への目覚め関心を持たせ、性の男女の身体構造の違いに気づかせる発問が見られた。それは「T5 男の先生と女の先生が同じTシャツGパンでいたら見分けはつきますか」と発問して、「後ろにいる教頭先生や他の先生方をよく見て下さい」と臨機応変な発問によって子どもたちは「男らしいからだ、女らしいからだ」のつくりを実感できたようである。

次に発問 T9 は、次の資料活用のところで述べることにする。

発問 T10、T11 は、本時のまとめにふさわしいものであった。

T10 に対しての子どもの反応は、授業後の子どもの性に対するイメージ、認識に如実に表出しているのである。例えば「男と女は助け合うということが分かった。男の子は女の子をばかにしてはいけないと思う」「私は男の子をからかわないようにしたい」「性とは小は心、生は生命だったことが分かった（二つの意味がある）」などと答えたものが28人中18人であり、両性の特性を認識しながら『生命の尊厳性』に気づいているのである。

2) 資料活用の適切性

本時の学習を成立させるには、資料提示が重要である。

この資料提示は、どのように学習を組み立てていくか、という学習指導過程の最適化の検討に通じる。それは同時にこの資料によって、「何に気づかせ」「何を分らせるか」という教材内容の検討にも関わってくるのである。

本時の授業の山場は、資料①から⑥までに綿密な分析がなされていることである。「性の違い」に直接入るのではなく、資料①によって、身長、体重の発育に目を向けさせ、からだの発育がやがて「男らしさ」「女らしさ」への学習を動機づけていった。

そして、本時の中心的な学習場面では、資料④、資料⑤によって、男性と女性の性の特徴を捉えさせるような説明をしていた。ここに至って、授業当初「はにかみながら」「くすぐられるような気分」で授業を冷ややかに見ていた子どもたちは、真剣に「我が家のことのように」「自分のことのように」真剣な学習態度に変容していった。

③授業後の子どもの反応

授業終了に本時で学んだことの感想を書いてもらったものが表10である。その子どもの感想から、本時授業の進め方を振り返り、「丁寧にわかりやすく教えていただいた楽しい授業だった」「絵や図を書いているので、竹中先生は私たちのために書いてくれたと思う。

表10 授業に対するイメージ、認識

(28名中)

分析視点	反応傾向	頻度数
体のしくみ 男女の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな体のしくみが分かり、赤ちゃんが産まれるかが分かった ・女性の特長と男性の特長がよく分かった（女性の卵子、男性の精子） ・大人になるまでの成長の様子が分かった ・女の人は5、6年になって生理が始まって40年間生理があることをはじめて知った 	22
自分の体との関わり からの気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・女性は4年生の2学期頃から大きくなることが分かって安心した ・ぼくは男性の特長はペニスがあるだけと思っていたけれど他にも特長があるなんて勉強になった ・ぼくはお父さんとお母さんが結婚してくれてよかった。だから産んでくれたお母さんお父さんに優しくしたい ・ぼくはお母さんだけで産まれていたと思っていたけれど、お父さんの力を借りて産まれてきたんだということがよく分かった 	5
生命の尊厳性	<ul style="list-style-type: none"> ・男と女は助け合うということが分かった。男の子は女の子をばかにしてはいけないと思う ・男性と女性とが力を合わせないと子どもが産まれてこない ・私は男の子をからかわないようにしたい ・性とは小は心、生は生命だったことが分かった（二つの意味がある） 	18
授業の仕方 学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧にわかりやすく教えていただいた楽しい授業だった ・絵や図を書いているので、竹中先生は私たちのために書いてくれたと思う。きっと苦勞したと思う。 ・竹中先生の授業はおもしろかった。また、保健の勉強をしたい。 ・勉強してよかった。わかりやすく教えてくれてうれしかった。 ・1時間で体のことがいろいろ分かった。どうもありがとうございました。 	14

きっと苦労したと思う。」というように、熱心な教え方、資料の活用の仕方等に対する共感的理解を深めたようだ。この他授業の内容の基礎・基本が習得できたという反省が、表10の反応例から読みとることが出来る。

なによりも「生命の尊厳性」「相互信頼による人権尊重」にも触れた授業に共感を持って迎えられたように思われる。

(2) 資料活用と板書構成 (山岡実践)⁽²⁾

1) 保健学習指導案

①単元名 「毎日の生活と健康」

②単元の目標

(1) 毎日を健康で過ごすためには、食事・運動・睡眠のバランスがとれた生活を続けていかななくてはならないということを理解できるようにするとともに、健康に対しての意欲を向上できるようにする。

(2) 体や心をより健康に発育・発達させるためには規則正しい生活を続けることが大切であることを理解できるようにする。

2 授業の考察

①教材研究の工夫

山岡教生は、4年生の保健学習指導を行う際、担任教師から教科書と教師用指導書を借用して、授業づくりをしている。さらに養護教諭からは、保健指導用の指導案参考書を借りて教材研究を行っている。



図 山岡実践のまとめ (p.127の指導案参照)

本時のグループワークが協力的、積極的な活動を期待したからである。

あらかじめ用意したプリント資料を読んでもらうことによって、今までの授業展開で発言させることの出来ない子どもたちの活動の場を拓くことができた。

②実践を振り返って

授業者は、本時の授業実践を振り返って、次のようなことを指摘している。

- ・授業をやるのが決まってから、給食や朝、帰りの「学級会」にコミュニケーションを取るようにした。(担任の配慮)
- ・グループワークは想像した以上に、一人一人の友だちの意見に耳を傾けていた。グループワークは確かによかったと思う。
- ・教師の発言が全員に聞こえるように大きい声で話すようにした。(また、子どもたちにも大きい声で発表しようと投げかけた。子どもを励ますようにした。)

③授業の改善点と方法

研究授業後の反省会があり、授業を見てくれた校長先生をはじめ、生徒主任、保健主事などの先生方から、次のような視点からコメントがなされた。

- ・メリハリのある話し方で子どもと接するとよい。例えば「そうだね」「よく分かったね」などとコメントをつけ評価することだ。—そうすると子どもの発表意欲がわいてくるからである。
- ・発言してくれた子どもには「ありがとう」などと必ずコメントをすること
- ・発言できない子への配慮をすること
- ・おしゃべりをして騒がしい時は、静かになるまで待つ気持ちが必要
- ・全体的に子どもの興味を引き付けて、よい授業ができたことと評価されている。

(3) 一枚の三角巾で応急手当の授業⁽²⁾ (岩佐実践=中学校3学年)

1) 保健学習指導案

①題材(単元)骨折、だきゅう、ねんざとその手当て

②題材(単元)設定の理由

応急手当の意義と必要性について理解させるとともに、日常生活で起こりやすい主な外傷や急病の応急手当で固定のしかたなど、基本的な技能を身につけさせたい。

③指導目標

個人生活におけるケガの処置を理解し、適切に処置していける能力を育てる。

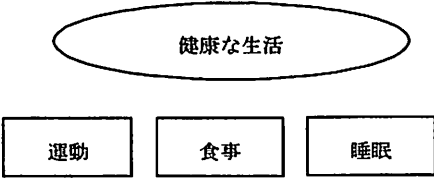
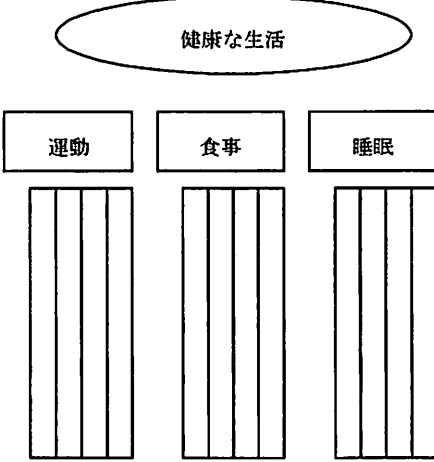
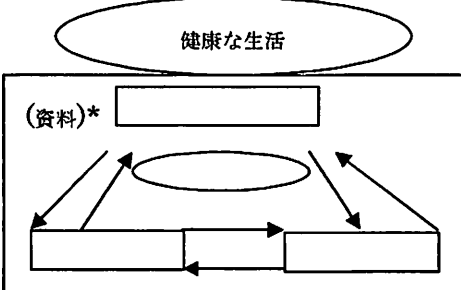
④本時の目標

ケガの重大さを知り、処置以前に、普段の生活でのケガの予防を心がける気持ちを持たせる。

2) 授業の考察

④学習指導過程と資料

指導案 3(山岡)

過程	教師の働きかけ	板書構成(資料)	子どもの動き
導入	1.健康に毎日を過ごすにはどんなことが必要ですか?		C1 よく食べること C2 よく運動すること C3 よく眠ること
展開	2.健康のためにはどんな食事の取り方をすればいいのか? <食事> <運動・遊び> <睡眠>		C4 食事、運動、睡眠の順にグループで話し合ったことを発表する <食事>グループ C5 好き嫌いなく食べる C6 3回のご飯をしっかり食べる C7 体を大きくする <運動、遊び>グループ C8 思いっきり汗をかいて運動する C9 毎日運動する C10 テレビゲームばかりしないで外で遊ぶ C11 筋肉をつくる <睡眠>グループ C12 早く寝る C13 夜更かしをしない C14 朝寝坊をしない
まとめ	3.元気で丈夫な体と心にするための心がけについて書こう		C15 資料をもとに今回学んだことを考えまとめる

⑤学習指導過程と脱臼、捻挫の応急手当て 指導案4(岩佐)

過程	主な教師の働き	資料の活用(○)	生徒の動き
導入 (五分)	T1 教科書 P98 例文を読ませ、どんな症状が疑われるか	①教科書(P98) ＜駒女の多いケガ＞ 脱臼 ・バスケットボール ・バレーボールでの指の骨折 ・跳び箱の着手と着地の捻挫	P1 ケガの経験を思い出す
展開 (三十分)	T2 教科書 P98①「骨折」の所を読ませる T3 黒板に書きながら、ケガのことについて説明する T4 教科書 P98②「脱臼、捻挫」の所を読ませる T5 脱臼、捻挫の説明をする T6 三角巾を配る T7 足首の捻挫の固定の仕方をしよう	②教科書 P98 ＜板書＞ ・題名 ・手当て ・症状 ③資料を使って説明をする ④教科書 P99 を使いながら、固定具の説明 ⑤脱臼、捻挫(板書) ⑥三角巾を配る	P2 教師の説明を聞く P3 資料を見ながら説明を聞く P4 三角巾のたたみ方 包帯の巻き方 P5 上履きを脱いで「足の捻挫の固定の仕方」実践する
まとめ (十分)	T8 学習のまとめをさせる(感想を書かせる)	○プリント配布	P6 普段の生活や運動前にどうしたらケガを防ぐことが出来るか考え発表する P7 学習のまとめをノートに書く

①教材の工夫

岩佐実践は、中学校3年「保健体育の授業」の中で行われた。

教材研究の基本的考え方は、教師の感覚でやるのではなく、あくまでも学習者である中学3年生の気持ちで、どのような授業をすればよいか、わかりやすいか、取り組みやすいかなどを考慮して、授業構成がなされた。普段、保健室にきている生徒の会話から判断して、授業を進めたのである。

本実践で学習を進め、理解を深めるのに有用な教材は、次の二つであった。

一つは、①②の教科書の活用である。この教科書は「中学保健体育」の教科書で、本時に学習する脱臼、捻挫の生じる原因と、それに対処する方法の概要を捉えさせるのに、有効であった。

二つは、「三角巾」の使用である。本時の最も重

視した学習活動として「三角巾を使って足首の捻挫を固定する」実演である。一人一人の生徒は、三角巾を使って、生徒同士で「P5 上履きを脱いで『足の捻挫の固定の仕方』を実演していたのである」たった一枚の三角巾が、本時の学習のねらいを有効適切に達成するのに、有意味性を有したといえよう。

②学習活動の工夫

本時の目指すものは、「脱臼や捻挫の応急処置の仕方を身につける」ことであった。

単に説明して分らせるのではなく、普段の生活に役立つような実践的活動を取り入れたことである。生徒の興味を引き、一人一人が意識的、目的的に活動できるように、生徒の分の包帯、三角巾、ガーゼ等を配布し、実際に応急法を行った。教科書の絵を見て、説明を聞きながら、実践的活動によって、一層「脱臼、捻挫の応急手当て」を具体的、実証的に

理解させることができた。

③授業を振り返って

授業実践者の岩佐は、授業について、次のように自己評価、反省をしていた。

授業は自分が思っている以上に、時間との戦いであった。うまい時間配分が、必要であった。私の場合、生徒自身に実践させたので、時間設定をすると余計に焦りが出る。なので、要点、授業に必要な単元は、実践前に全て終わらせるように努めた。クラスによって、実践の時間が掛かるクラス、スムーズに終わるクラスに分かれるので、臨機応変に行えたらよかったと思う。回りからはあまり指摘されなかったが、自分は授業内での生徒とのキャッチボールが難しかった。例えば、生徒に投げかけた発問に、生徒からの返答を受け、その返答へのコメントが、すぐに浮かばないこともあった。授業を行うことに慣れていないせいもあり、授業を行うというプレッシャーからか、緊張してしまう毎日であった。しかし、授業を行うことで、行う側の苦勞も知り、受ける側と行う側の気持ちを知ることができた。とてもよい経験をする事ができたと思う。「私も先生みたいな保健室の先生になりたい」と生徒に言われ、すごく感動したことも記憶にある。知識などはあまりないが、努力はしていたので、すごくうれしいことであった。

実習中はたくさん苦勞もあったが、生徒の励ましや先生方の励ましの言葉で、最後までやり遂げられたのではないかと思う。

尚、授業を受けた生徒の大部分は「実演したことが楽しく、わかり、身についた」「先生の説明は絵と写真を合わせてわかりやすかった」「足首の捻挫の固定法の効果がよくわかった」などの反応が見られる。観察者の菊地も同様の評価を行っているように、短大生でも教材研究と熱意が、授業成立の条件であるということを証明した授業であった。

④授業の改善点と方法

岩佐実践を自ら反省している点か、今後の授業改善に活かしていく必要がある。

すなわち

- ・全体の授業過程の中の一時間の実践であるが、授業研究においては、全体と部分の有機的関連をとらえられるような研究が、大学の保健学習指導法の中で、実践的に学ぶ必要がある。
- ・授業とは、教師と生徒・生徒同士のコミュニケーション過程である、といわれる。実践者自ら反省しているように、学生同士臨機応変なコミュニケーションが行えるような大学の授業風土が見られる

ようにしたい。

- ・板書構成は、学習の流れが分かり、理解と認識が分かるように構造化された板書づくりのトレーニングが必要である。
- ・生徒からの予想外の質問にどう応えるかも授業者の専門性が問われるところである。養護教諭としての教養と専門性を高める努力が学生自ら自覚して学び続ける方法を修得させる必要がある。

(4) 教育実習で学んだこと

教育実習終了後、すべての学生に「教育実習報告」をまとめて提出してもらった。その報告の中の「教育実習で感じたこと、考えたこと」記述した部分だけを抽出して解析した。

表11は、教育実習時に学生は教育実習に対してどのようなイメージ、認識を持ったのだろうか、を把握することを意図して作成したものである。

この表11に示された記述内容から、今後大学における学びたい意欲、未来へ向かう学生の夢とその実現への達成動機が示されているように思われる。

表11で最も注目すべきことは二つある。

その一つは、大学における授業内容と教育実習との整合性の問題である。大学における机上の解説では、教育実習において「事実」「実態」とあまりにも違いがあり、大学における授業内容が、もっと実践的、臨床的、実務的な内容でなければ、教育実習という実践的活動、実践的指導力を生かした実習が不可能である。このように学生から厳しい、大学のカリキュラム及び授業内容への、検討課題を提示されたのである。

しかし、その二つは、教育実習という新鮮で、不安感のあるものへの、初挑戦ではあったが、短期大学生という素直さが、学習への動機と実践への実現欲求が増幅していき、養護教諭への将来展望、願い、夢を抱くようになった点である。すなわち、養護教諭という「生命に関わる大切な仕事」「難しい仕事」であることを、体験的に充分理解した上で「『養護教諭』になりたい」どんなに時間を掛けてでも、進学して何年掛かっても、「『養護教諭』を目指したい」と願いを持った学生のいたことは、教育実習という体験的、実践的、教育活動の持つ人間形成の価値が、大きいことを証明しているものと考えられる。

5. 研究成果と課題

以上の研究成果を要約的にまとめてみたい。

- (1) 事前指導において力点をおいたところは、2年次学生の教育実習における実践体験したことを1年次学生に聞かせたことである。それは、4(2)「田中

表11 教育実習を終えて感じたこと・考えたこと

(31名中)

	主な反応例	頻度数
大学の授業と実習校	1 大学で学んでいることと実際の現場では全く違う (養護の仕事、学校経営、先生方の仕事、勉強、コミュニケーション 知識不足であった)	8
	2 思ったことと違っていた (仕事と責任)	2
	3 単なるケガ、病気の手当だけでなく、社会に出て自立していけるように指導すること	1
	4 自己管理を身につけたりすることが大切なこと	1
	5 生徒に対して失礼のないよう自分が身につけ生徒に与えることが大切	1
子どもとの関わり方	6 生徒はみんな礼儀正しく素直でよい子	2
	7 40人クラスにいろいろな生徒がいる 一人一人に適した対応が難しい (コミュニケーション)	4
	8 心の問題にも各々問題と背景が異なり、各々にあった対応の仕方が必要そのための個々の子ども理解が大切	3
教育実習で体験したこと	9 最初は不安、戸惑い、緊張感—最初の1日が長く感じた	5
	10 先生方にサポートしていただいた 指導教諭から多くのことを教えていただいた	5
	11 貴重な経験をさせてもらった 「見ること」「やること」みな新しいことばかり	3
	12 教生になって教えることの難しさを知った	2
	13 保健学習指導をさせてもらい大きな経験であった (何回も何回も指導案を書き直した。やればやるほど、一生懸命やれば子どもが返ってくる)	3
	14 先生方の苦勞を改めて知った	1
	15 週末にレポートを作成し、先生に見てもらい、間違いを返してもらった。注意を喚起され、私にとってそれが一番勉強になった	2
	16 子どもと共に活動するとよく話してくれる (給食、掃除)	3
17 身体測定、内科検診などよい体験ができた	1	
18 移動看護施設の訪問、中学校訪問など貴重な体験であった	1	
自己実現への動機	19 大変だったが毎日が充実していた、有意義な実習だった、感謝がわいてきた	8
	20 楽しい実習であった (すごく疲れたけれど、緊張したけれど)	8
	21 よい養護教諭になりたい、その気持ちが一層強くなった (勉強していきたい) やりがいのある魅力ある仕事、進学したい、夢がさらに広がった、進学して実現したい—何年掛かっても先生になろう	8
	22 自分を大きく変えてくれた4週間であった (自分の甘さも感じた)	2

(注) 複数回答による

実践から学ぶ」という項に述べたことである。いわば、田中実践からは、「実践的指導力」を1年の学生はそれなりに「授業づくり、教材づくりの大切さ」「しっかり今から学びたい」という達成動機づけができたことである。

(2) 4 (3)「教育参加」という小学校の保健室の保健環境や養護教諭の保健室経営、子どもへの対応などについて学ぶ機会を設けたことである。「教育参加」は、短時間であったが、子どもの活動状況をつぶさに観察しながら「子どもへの関わり方」「教師の指導、援助のし方」に気づき、教育実習への新たな不安の中

にも自分なりの教育実習に対する課題意識を持たせることができた。

そこで得られた教育課題の研究成果を発表し合い、情報交換したのが有効であった。

(3) 教育実習に行く切実性は、直前指導において一層現実味が増し、不安の中にも課題意識、目的意識を持つようになる。学生の大部分は、実習校に足を運び「実習までに何を、どのように学んだらよいか」「授業をする時は何を (内容・テーマ) どのように (方法) 進めたらよいか」などについて話を伺いながら、教育実習を自らの問題として主体的に取り組もうとする態

度が醸成されていった。

(4) 本論で特に強調したことは、学生が実践した4(4)③の保健学習指導過程の分析である。ここでは、竹中、山岡、岩佐の実践について、授業記録を解析したり、実践者の授業構成、教材づくり、活動の工夫等について尋ねたりして、授業分析を行った。短期大学生であっても、授業づくりの基礎・基本は、岩佐実践の自己評価・反省にもあったように教材研究の徹底を図り、提示資料の吟味しながら

「教師の感覚でやるのではなく、あくまでも学習者である中学3年生の気持ちで、どのように授業すればよいのか、わかりやすか、取り組みやすいかなどを考慮した」

という指摘である。

これは、子どもの理解力、或いは土井進氏のいう「子どもに寄り添う教師の人間力と教材構成力(教材開発力)、授業組織力」などを総合した教師の実践的指導力を存分に生かしたことである。

竹中実践では、自ら自作資料を子どもに見せ、考えさせることによって、教師の役割、働きに共鳴・共感を子どもに与えたことである。

山岡実践は、学習過程に即して、作成した文字版(学習カード)を構造的に板書構成したことが学習者の認識をより確かなものにした実践であった。

以上のように本論を要約的に「実践指導過程」を検討した。その結果から、次の点から本学の養護教諭養成事前事後指導プログラムの適切性を検証できたものとする。

1. 田中実践を学ぶことを通して1年次学生に教育実習の重要性、授業づくりの基礎・基本、実習への意識化を図ることができた。
2. 「教育参加」は、学校、保健室、子どもの様子などに関心と理解を深めるのに有効であった。
3. 教育実習の直前指導において、「実習への心構え」「実習での切実な課題、目的意識」をもたせることができた。

以上の点から、本学の教育実習事前事後指導プログラムは、学生に子ども理解力、教材研究力、授業構成力を形成するのに有意味のあるものと考えられる。

しかし、教育実習を行った学生の反省会では、次のような痛烈な要望が提示された。

- ①教育実習に直接役立つような授業科目を開設するようカリキュラムの検討をして欲しい。
 - ②大学の授業は、机上の話が多く、実践的指導力が身につくような授業を具体的にしたい。
- このような学生の要望、要求は、本学の養護教諭養

成カリキュラムとしての妥当性・適切性を検討する必要性に迫られたことでもある。これは、養護教諭の専門性を高める上で避けて通れない課題であるとする。

この学生の要望・要求に応えるには、我々教師の研究と教育の融合した実証的研究が不可欠であるとする。今後、我々は、研究をさらに深化・発展させる必要があることを痛感するものである。

本研究では、教育実習で実践した事例を解析し、実践指導プログラムの有効性、適切性を検討した。この際、田中、竹中、山岡、岩佐の四人の学生の保健学習指導の実践が大いに役立ったことを明記し、謝意を表したい。

尚、本研究は、増淵久子、池ノ上直隆、鳥居英男、品川弘子の四教授の協力をいただいた。

(注)

- (1) 小林冽子 保健指導と養護教諭の成長についての一考案 千葉大学教育学部研究紀要 第47巻1 教育科学論 P.159~168
- (2) 小林 冽子 保健指導の実践と「中堅」の養護教諭の成長 千葉大学教育学部紀要 第48巻1 教育科学論 P.193~201
- (3) 柴田義松、杉山明男、水越敏行、吉本均編 教育実践の研究 図書文化 1990 P.12
- (4) 高久清吉 教育実践学 一教師の力量形成の道 教育出版 1999 P.3
- (5) 土井進 「『信大YOU遊広場』の精神と実践的指導力の養成」『第一期「信大YOU遊広場」の実践 臨床の知を求めて』 信州大学教育学部 2002年 P.210
- (6) 穴戸洲美編 養護教諭の役割と教育実践 学事出版 2000 P.14
- (7) 平成16年度の授業科目「健康教育」を開設することになった。この科目は、主として保健学習指導法として、教材づくり(教材開発力)、授業づくり(授業構成力)、授業の進め方など実践的指導力形成に資するものとする。
- (8) 筑波大学附属小学校で教育実習(2002.)
- (9) 主に参考文献として使用した本は、次の1)~5)である。
 - 1) 皆川興栄・川畑徹朗 喫煙防止教育のすすめぎょうせい 1998.6
 - 2) 中道 武 「これならできる!成功率99.9%の嬉しい禁煙の本」主婦と生活社 2001.4
 - 3) 土木信引 21世紀型授業づくり タバコに手

を出さない子を育てる小学校の喫煙教育 明治
図書 3001.7

4) 宮崎恭一 たばこで他殺、たばこで自殺 女
子栄養大学出版部 2000.12

5) 青木 喬 健康・スポーツの生理学 建白社
2001.1

(10) 菊地紀子、佐島群巳 養護教諭養成における実
践的指導力形成に関する研究－「実践事例」「視
聴覚教材」の活用を中心に 教材学研究 14巻
2003.3 P.217～222

(11) 資料4の出典 川畑徹明 N I C E II 地域と
連携した小学校高等学校から喫煙防止プログラム
大修館書店 1995.3 付録 指導用資料2・3参照

(12) 資料5の出典 宇土正彦、高石昌弘ほか13名
新高等保健体育 1996.4 P.87

(13) 資料6の出典 宮崎恭一 たばこで他殺、たば
こで自殺 女子栄養大学出版部 2000.12 P.73

(14) 資料7 資料6前掲書 付録参考資料 P.5

(15) 小学校の教育参加は、1年次の2002年9月2日
から9月9日まで、グループに分かれて、1グルー
プ午前中3時間のみ教育参加を行う。教育参加の
学校は、渋谷区立の中幡小学校、東本町小学校、
笹塚小学校、常磐松小学校、富谷小学校の5校で
あった。

(16) 幼稚園の教育参加は、1年次の2002年9月10日
～9月20日にわたって、少人数による参観を行っ
た。実施した幼稚園は、本学に隣接している帝京
第一幼稚園であった。

(17) (4)の本項目は、「養護教諭養成における実践
的指導力形成に関する研究(その4)」の副題で
ある。このことについては、日本教材学会研究大
会(2003.11.8)において報告したものである。

(18) 4年生大学の教員養成課程においては、3年次
に附属学校における予備的な教育実習が3週間実
施される。さらに4年次においては、公立学校に
おいて3週間、本格的な実習を行っている。

(19) 穴戸洲美氏は、渋谷区立中幡小学校に勤務する
養護教諭である。

(20) 竹中実践は、松戸市立殿平賀小学校で行われた。
竹中実践を佐島が参観記録し、それに基づいた考
察を行った。

(21) 山岡実践は、川越市立山内小学校で行った。尚、
山岡実践は、実践授業についてのレポート及び本
人から授業過程の記録が提出されたので、それら
をもとに考察したものである。

(22) 岩佐実践は、駒沢学園女子中学校で行ったもの

である。岩佐実践は、菊地が直接授業参観し、菊
地の授業記録をもとに考察したものである。